

「夜間学級」を捉える

荒井 英治郎 (信州大学 学術研究院総合人間科学系)

1. はじめに

本稿は、2022年度に開講した教職科目(選択)「現代社会と教育問題」(2023年1月10日)の授業にオンラインゲストとしてご参加いただいたゲストティーチャー(城之内庸仁氏:一般社団法人岡山自主夜間中学校をつくる会理事長)の講演内容を再構成したものである。記録作成に当たっては、山田海智さん、後藤友作さんに尽力いただいた。記して感謝を申し上げたい。

2. ゲストティーチャーの話

(1) 夜間中学校の歩み

【ゲスト】一般社団法人 岡山に夜間中学校をつくる会の城之内です。現在は、香川県初となる公立夜間中学三豊市立高瀬中学夜間学級の設立にも関わっています。

夜間中学校に通う生徒には、未就学者の高齢者、不登校で教育的配慮のもとに卒業証書を受け取った「形式卒業者」と呼ばれる方、そして、外国籍の方や外国につながりを持つ方が中心です。そして、香川県三豊市の夜間中学校では学齢期の不登校生徒の受け入れを日本で初めて行うことになりました。現在、公立夜間中学校は全国に40校ありますが、39校はすべて受け入れの年齢制限が16歳以上になっています。

日本にある公立夜間中学校の数は1955年で最大89校とピークを迎え、2018年は31校と減っています。1955年のピークの後に急激に数が減っているのは、今の総務

省である当時の行政管理庁が当時の文部省に、子どもたちが昼の学校に行かなくなるのは夜間中学校の存在が起因しているとし、減らすように勧告したことが関係しています。このため、1970年まで減少の一途を辿りました。昔は、夜間中学校は戦争孤児や経済的事情を持つ10代の子どもが中心でした。しかし、70年代に、「夜間中学校は安易に数を減らせるほど簡単なものではない」と、現場の先生と夜間中学生が立ち上がって30数校を維持していきました。現在では、15都道府県の40校あります。そして、2019年に約30年振りに埼玉県川口市と千葉県松戸市に夜間中学校が開校し、20年は茨城県常総市、21年は高知市と徳島市、22年に香川県三豊市、札幌市、相模原市、福岡市と広がっていきました。私が住んでいる岡山市も2025年4月に開校予定です。

夜間中学校に通う理由は、年代によって異なります。60年代は戦後の混乱期で、経済的理由を持つ方や在日コリアンの方が多

いです。70年代から80年代は、中国や朝鮮半島の国交が正常化され、残留孤児等の入学が増加しています。さらに、当時は不登校の生徒を一部体験入学という形で受け入れていたという事実があります。三豊市は日本で初めて正式に不登校児を受け入れています。東京では70年代に受け入れの事実がありました。こちらはあくまで「体験」という名目で受け入れており、三豊市立高瀬中学校夜間学級の場合は、学籍を移す、つまり「転籍」しての受け入れになります。90年代は、出入国管理及び難民認定法改正で、外国籍や外国につながりを持つ方、さらに国際結婚に係るニューカマーも増えてきました。このように、夜間中学はその時代を映す鏡と言われている。「あってはならない学校」だけでも、「なくてはならない学校」なのです。つまり、基礎教育の保障が十分でないために、夜間中学校の存在は極めて重要であると言えます。

(2) 夜間中学に関わるデータ

【ゲスト】夜間中学の必要性についてのエビデンスをお伝えします。

1つ目は、「識字率」です。ユネスコのデータですが、アフリカやアジアは非識字者が多いです。他方で、日本も含む先進国の部分には「No Data」と書いてあります。これは調査されていないということです。ですから、日本は99%、場合によっては100%の識字率と言われながら、本当の実態は分かっていません。私は日本にも読み書きができない人は多くいると思っています。識字率を問い直す時期に入っています。

2つ目は、「未就学者数」です。2020年に

総務省が出したデータでは、義務教育未就学者が9万人以上いると言われています。実は、10年前は12万人以上と言われていました。つまり、約3万人減っています。これは、夜間中学に3万人が通って義務教育修了者になったというわけではなく、「命が尽きた」、3万人以上の方が学びたくても学べないまま命を落としたと読むことができます。さらには、小学校卒業のみの方が約80万人以上います。また、NHKがまとめたデータによると、小学校卒業のみの方は10代から50代までそれぞれ一定数います。そこで、NHKの社会部が「80代90代なら分かるが、なぜ現代において小中学校が整備されている中で、60代以下もしくは50代から10代の方が小学校しか行っていないと答えているのでしょうか」と私に聞かれました。これに対して、私は、「いじめや不登校、そして引きこもりや親のネグレクトなどで、学校に行くことができない子どもたちは形式的に卒業はした、もしくはさせられたわけだけでも、その子どもたちは学校を卒業していないという認識になっているのではないか」と答えました。私も教員をやっていて気付いたことですが、卒業式の日、学校に来ることができなかった子は、可能なら校長室に来て、卒業証書の授与式をしました。しかし、来ることができない子に対しては担任が自宅を訪問します。その際に、ご両親を通じて、子どもさんに卒業証書を渡してもらうように依頼をしますが、渡してくれているか分かりませんし、その子がその卒業証書を自分のものだと認識しているかも知るよしありません。そういった子どもたちが成長した時に、自分は卒業式に行っていないという思いがあり、調

「夜間学級」を捉える

査で、中学を卒業していないと回答したのではないかと推測しています。

3つ目は、「外国籍未就学者数」です。2019年に約2万人の外国籍の子どもたちが小中学校に行けていないというショッキングなデータが公表されました。教育委員会は日本国籍の子どもには就学通知を出しますが、憲法第26条にある「すべて国民」でない外国籍の子どもたちには就学通知が届きません。もちろん国際協定で、外国籍の子どもが希望すれば、日本の義務教育段階に受け入れることができることにはなっています。今、文科省は各地方自治体に、就学通知の代わりになる案内は出してほしいと呼びかけを行っています。しかし、最新データでは約1万人前後になったと言われていますが、まだ約1万人の子どもは教育の機会を得ているとは言えません。

最後のデータは、「外国人の子どもの不就学実態調査」です。学校へ行かない理由として、「学校へ行くためのお金がないから」、「日本語が分からないから」といったキーワードが1番多いです。では家で何をしているかと聞くと、「家では特に何もしていない」、「仕事をしている」、「兄弟姉妹の世話をしている」が約7割を占めます。「もし行けるならどうか」という質問には、「学校へ行きたい」と答える子が3割を超えます。そこで「分からない」と答える子も3割弱います。ただ日本の学校を見たことも聞いたこともないので、分からないと答えるのは当然だと思います。答えようがありません。「分からない」というのは行こうか、行くまいかが分からないのではなく、そもそもどんなところか分からないので、行くことも、行かないことも判断できない、と

いう状況だと思います。

行政は夜間中学設置に対してニーズ調査をします。学校を新規に設置するにはニーズ調査が必要だと主張します。しかし、そもそも夜間中学に行ったこともなければ、見たこともない方に、ニーズ調査をどこまで正確にできるのでしょうか。先ほどの外国籍の子どものように、そもそも「学校」のイメージがつかめない中で、学校に行きたいか、どうかの質問が成立するのか、ということを見落としてはいけないと思います。何よりも学びが不十分だった人たちは声を出したくても出せない現状があります。

そのような中、2016年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」、いわゆる、「教育機会確保法」が制定されました。当時の文部科学大臣が馳浩さん、事務次官が前川喜平さんです。このお二人だったからこそ、この法律ができたといっても過言ではありません。それは、馳さんや前川さんは、机上で物事を考えるのではなく、実際にできるだけ当事者の声に耳を傾け、寄り添い、考え、行動される方だからです。

(3) 公立夜間中学と自主夜間中学の違い

【ゲスト】では、ここで少しくイズをしてみます。画面に映し出されているのは、「中国のATM」です。どれがお金をおろすボタンかわかりますか。次に、今画面に映し出されている「標識」は、どのような意味を指しているかわかりますか。

ここで申し上げたいことは、文字が読めない、毎日が不安や心配の連続だということ。例えば、ひきこもりの方にも、

様々な事情や状況がありますが、読み書きが心配だから出てこれないという方も少なからずいらっしゃいます。

公立夜間中学は月曜日から金曜日まで給食もしくは捕食があります。就学援助もあります。教科書は無償の配布です。しかし、自主夜間中学は、財源は乏しいです。また、公立は教員免許状を持っていますが、自主はボランティアベースで、教員免許は必要ありません。

(4) 三豊市の取り組み

【ゲスト】ここで三豊市の公立夜間中学に9人の生徒が入学したニュースをご覧ください。入学当初の生徒数の内訳は、三豊市内から4名、三豊市外から5名です。10月には日本初の学齢期の方が1名、学齢経過者が1名在籍されました。三豊市立高瀬中学校夜間学級は、不登校特例校の指定を受けていますので、不登校の現役の生徒が来ることができます。40校中39校の公立夜間中学は16歳以上という入学要件になっています。15歳以下の子に在籍を可能にするには、不登校特例校の指定を受けるしか選択肢がありませんでした。

昼間の中学校の標準授業時数は、1年間に1015時間です。しかし、夜間中学は夕方からの4時間しか授業ができませんから、年間時数は、約700時間しかできません。なぜ、約700時間しかできないのに、中学校の卒業認定が受けられるか。文部科学省は、16歳以上は社会経験の中で学習指導要領の内容について無意図的に学んでいる部分があるという判断をしています。ただそうすると、社会経験がない15歳以下の子を

受け入れようとする、その論理が破綻してしまいます。そこで1015時間の担保として約700時間は難しいので800時間前後の授業時数の確保が必要ということになりました。三豊市立高瀬中学校夜間学級の場合は805時間、つまり週に3回、ひなの時間と言われる0時間目を設定しています。この0時間目は、学齢期の生徒さんのみ受ける授業です。

三豊市立高瀬中学校夜間学級では、夜間中学生が興味関心を持てるように一生懸命工夫をされています。時にはたこ焼きパーティーをしたり、七夕祭りでは、昼間の生徒さんと交流をしたり、岡山自主夜間中学校とオンライン交流も行われました。通知表は記述式で、評定を出していません。これに対して、学齢期の生徒が高校を受験する際に評定がないと受験はどうなるのか。夜間中学に学齢期の生徒を在籍させることで新たな課題が出てきています。

(5) 自主夜間中学校の運営

【ゲスト】岡山では自主夜間中学校を2017年4月に開講し、現在は320名以上の生徒さんが在籍されています。最初は、半年以上、小さな公共施設の一室を借りて私一人で生徒さんを待っていましたが、生徒さんもスタッフさんも誰も来ませんでした。ただ、諦めていたら岡山自主夜間中学校は存在していなかったと言えます。今では日本最大規模の自主夜間中学校とまで言われるようになりましたが、その道は苦難の連続でした。岡山自主夜間中学校は、小学生から参加可能です。例えば、不登校の中学生の弟さんも不登校で、小学生の弟さんも一緒に

「夜間学級」を捉える

勉強したい、と言われたら参加が認められます。また、外国籍の方や精神疾患の方、特別支援学校高等部を出たけれど、十分に勉強ができなかったと思われる方、不登校の方等、ものすごく増えています。岡山自主夜間中学校のチラシを作っていますが、そこでおしまいではありません。チラシがあっても、読み書きに苦手意識がある方、そもそも読めない方にとっては、チラシの意味はありませんから、私はいつもチラシを持って「どうかこのチラシが読めるあなたは身の回りで気になる方に、口頭で紹介してあげてください」と伝えています。

生徒さんのそれぞれの特性に沿った指導を心がけています。「かぐや姫」が読めるようになった生徒さんは、読み終えたとき、本当に嬉しそうな笑顔を見せていました。そろばんを習われている生徒さんもおられます。この方は「自分が小学校の時にそろばんを用意できなかった。そしてそろばんの授業の時にはずっと休んでいた。70歳を超えた今はそろばんを使うことはない。でも、このそろばんをマスターしないと、死んでも死にきれない」と言われています。夜間中学校は「読み書き計算」だけを学ぶ場所ではありません。「人間の尊厳」を取り戻す場所なのです。

本当に色々な生徒さんが学びに来られています。昼間の学校と同じような教育活動にしたいという思いで、校外学習など様々な取り組みをしています。「誰かと一緒に掃除をしたことがない」という不登校の生徒さんとは、一緒に掃除をする体験をし、孤食が進む中でご飯を一緒に食べたことがない方には、一緒に食べたりしました。みんなで練習して、英語で童謡の「ふるさと」を歌い

ました。補食として、パンを準備しました。しかし、残念ながら岡山自主夜間中学校では今はこれを中止しています。1個100円のパンでも100人分用意すれば1万円、月に4回で4万円、年間約50万円かかります。生徒さんからは授業料は頂かず、スタッフさんからの会費や色々な場所で講演して得た謝金等でなんとか運営していますので、とても厳しいです。一方で、たとえ厳しくても生徒さんの安心できる学び舎を作りたいという思いで、雑居ビルを借りて常設教室を一緒に作りました。

公立夜間中学には非常に厳しい入学要件があります。学びたくても学べない方が出てきます。先にも述べましたように、「自主夜間中学」、「公立夜間中学」には、それぞれメリット、デメリットがあります。自主と公立は「自転車の両輪」と考える必要があると思います。どちらか1つしかなければ、一輪車のように不安定なのです。学びたいと思うときに、その方にとって最適の学びの場があることが重要だと考えます。

(6) 社会における夜間中学

【ゲスト】ここで、非識字者の男性のドキュメントテレビを見てもらいます。

- 「市役所筋(すじ)方面」を「市役所筋(きん)」と読むシーン
- 「標準(ひょうじゅん)工事費」を「標準(たんじゅん/つうじょう)」と読むシーン
- 「外より家が落ち着く」、「外では自分に自信がない」、「自分でも『クズ人間』だと思う。そういう自分を変えたい。勉

強をし直して働きたい。」とのコメント。

【ゲスト】「棺桶に卒業証書を入れたい」、「役所で惨めだった」、「自分は名前と住所くらいしか書けない。何が申請書に書いてあるか分からなかった。ぐずぐずしていると人がいっぱいになって手続きをせず、慌てて帰るしかなかった」といった夜間中学生の声があります。また、こういうエピソードもあります。岡山自主夜間中学校の生徒さんが勇気を振り絞って「俺みたいな人間でも学び直しをしている姿をみてもらって、ちょっとでも学校に通いたいと思う人が増えたらいいな」という思いで、テレビの取材を受けられました。ところが、近所の人からは「読み書き計算ができん人がいく恥ずかしい学校に行きようるんじゃね」と言われました。恥ずかしいのはその生徒さんではなく、そのようなことをいう人がいる社会の方です。

動画で市役所筋(すじ)が読めなかった彼は今、就職が決まって週3回働いています。夜間中学について1人でも多くの方に知って頂きたいし、基礎教育を保障することがいかに重要なのか、知って頂きたいです。

(7) 質疑応答

【参加者】現在、外国にルーツを持つ子どものためには外国人学校や日本語学校があり、不登校児童生徒のためには居場所支援の場所等が充実しつつあります。これに対して、夜間中学校の場で、高齢者で学び直したいというニーズを持った人と、日本語を学びたいという外国籍のニーズを持った人など、

様々なニーズを持った人を1つの場所に集めて教育することは果たして目的にかなうのかをお聞きしたいです。また、公立夜間中学校を作るメリットとして、給食や教科書等の費用をあげていましたが、現在の自主夜間中学校で多くのボランティアが集まり、1人1人個々にあったニーズに応じていくものに比較して、「公立」を強調する意味を詳しくお聞きしたいです。

【ゲスト】私は、日本語教室、適応指導教室、フリースクール、公立の夜間中学校、自主夜間中学校、全て必要だと思います。大事なことは、教育を受ける場の選択肢があるかどうかです。例えば、入管法が変わったことで、家族滞在という形で日本に来る外国人がいます。16歳以上になると原則昼間の学校に入れません。その出身の国で義務教育を受けていない可能性もあります。そういった場合、日本の高校は受験できません。その意味では、義務教育を修了していないと、そのあとの道が閉ざされてしまいます。また、日本語学校や日本語教室は、あくまで社会教育のカテゴリーです。

自主夜間中学校は、公立夜間中学と違って、国語をやりたければ国語、英語なら英語とやりたいことだけをやる形ですが、公立夜間中学は、805時間、700時間は確実に授業数が確保され、時間割があります。本人が読み書きだけやりたいと言ったとしても、その他の教科をキチンと学ばないといけません。

つまり、学習者にとって最適な学びの場はどこか、ということです。高齢の学習者と外国籍の学習者は学びのニーズは確かに違います。しかし、同質集団で学ぶよさと様々

な年齢、国籍で学ぶ、言うなれば異質集団で学ぶ良さはあります。公立がいい、自主がいい、というどちらか一方ではなく、どこまでも学習者中心の学びの場の確保、多様な選択肢が必要だと考えます。

【参加者】夜間中学校の活動をなぜ始めようと思ったのですか。学校の同僚には声をかけなかったのですか。

【ゲスト】3年間ほぼ学校に来ることができなかった不登校の生徒との出会いでした。その彼が、形式的に卒業した数年後、働きたくても履歴書が準備できない、と相談してきたことがきっかけでした。また、私も含めて、多忙な同僚には声を掛けることは出来ませんでした。どんなに小さくてもまずは誰一人置き去りにしない学びの場をつくろうと、2017年に開学し、2018年12月には一般社団法人にして活動をしています。